

巻頭言 「オオルリシジミの保護活動と学校連携」

田下 昌志 福本 匡志

一昨年、飯山市の生物多様性保全計画が策定され、「意識」、「自慢」、「課題」、「未来」の共有を掲げ、地域連携活動を強化する方針が示されました。その取り組みを進めるため、「知ろう！つなごう！飯山流自然づきあいの作法」(右の写真)を発行、市民の方々へ生物多様性保全の啓発のほか、市内の小学生に配布され、子供たちに飯山の自然環境のすばらしさとその保全のためにできることを掲示、環境教育を進めるねらいもあります。

この冊子には、井田会長始めそれぞれの執筆者の自然に対する想いが込められており、小学校の学習教材として活用されることを期待するものです。

また、2012年に策定された第2次飯山市基本計画には、環境教育や環境学習の推進が謳われており、当会でもオオルリシジミをシンボルとした環境教育・学習を小中学校と連携してできないものかと模索している最中です。



他地域でのオオルリシジミ保護活動と学校連携の取り組みとして、東御市の「北御牧のオオルリシジミを守る会」では、会からの呼びかけにより、2003年から地元の北御牧小学校理科クラブでオオルリシジミの累代飼育（種の保存）が行われています。

会の援助・先生の指導を受けながらクラブ員が協力して飼育の世話と観察記録に取り組み、有意義な総合学習、郷土教育、理科教育が続けられているそうです。また、会ではオオルリシジミについて理科の特別授業や、パネル展示を行ったりもしており、会員の環境教育への積極的な関与により功を奏していることがうかがえます。

幸いにして、飯山のオオルリシジミ保護活動も周知されてきたおかげで、飯山小学校など関心を持っていただいている先生もおられるようで、今後は学校側の意向も聞きながら方法を検討し、環境教育に寄与していきたいと考えます。

2年前から戸狩地区で行っているオオルリシジミの試行的放蝶は、放された蝶が産卵する様子が観察され（右写真・昨年6月10日のもの）、軌道に乗りつつあります。こちらについても定着を安定化させるため、是非、地元の住民の方々や小学生にこのような取り組みを知ってもらい、皆でオオルリシジミが舞う姿を楽しみながら、食草・クララの植栽など環境整備を協働して行っていければと思います。

当会の来年度事業として、これから調整を行っていきますが、学校との連携には、平日に行う観察会の運営など、会員の協力が必要不可欠となってきます。オオルリシジミを始め北信濃の豊かな自然環境が子々孫々と守り伝えられるよう、みなさんの積極的な参加を願うところです。



お知らせ

「定期総会」と「いいやまの郷土食とブナ利用を考える会」の開催

本年度の当会の事業実績の承認と来年度の事業計画を協議いただくため、以下のとおり「定期総会」を開催します。地域の方々と連携を深めながら、オオルリシジミの保全活動のほか、生息地のカヤ場草原、ブナをはじめ森林の地域資源としての利用など、幅広い里山保全活用につなげたいと考えます。

会員のみなさんからも、御要望・意見をお寄せください。

総会終了後は、昼食として、北信濃の里山が育んだ郷土料理をいただき、「いいやま食文会」の方々からお話しをお聞きしながら、意見交換を予定しています。「いいやま食文化の会」は今回の会場となる「月あかり」を営まれ、郷土食の継承や地産地消の推進、子供たちへの食育活動に取り組んでおられます。

その後は、井田会長をはじめ信州大学の教員の方々で進めている「ブナの実プロジェクト」（地域貢献プロジェクトとして実施中）を紹介していただきます。「ブナの実」を食材や草木染めの素材としての活用方法を検討中とのことで、当日は研究成果の一つ、「ブナの実ようかん」の試食を予定していますので、お楽しみに・・・。

里山の「食」と「地域資源」について理解を深めていただければと思いますので、是非、御参加ください。

- 1 開催期日 平成27年3月1日（日）11:00～
- 2 会場 「味蔵 月あかり」
飯山市大字飯山2941-1（高橋まゆみ人形館前）
TEL 0269-67-0188
<http://www.ningyoukan.net/tsukiakari/index.html>
右下の地図参照

3 日程

(1) 「北信濃の里山を保全する会 定期総会」

10:30～ 受付

11:00～ 開会、あいさつ

議事（当年度事業報告・収支決算、
次年度事業計画・収支予算など）

12:00 閉会

(2) 「昼食と意見交換」

12:00～ 昼食

12:30～ 「飯山の郷土食のお話し」

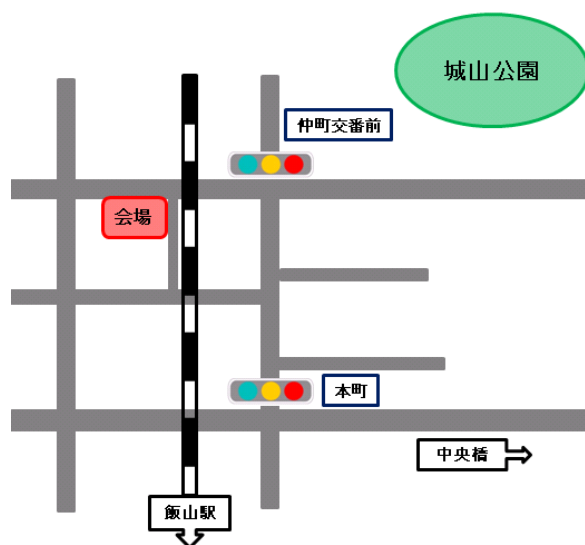
「ブナの実プロジェクト」について

14:00 閉会

- 4 参加費 1,000円（昼食費として）

5 申し込み方法

参加を希望される方は、飯山市公民館・飯山市教育委員会生涯学習課（TEL：0269-62-3342）へ2月23日までに申し込んでください。



活動報告など

・戸狩カヤ刈りワーキング「わたしをかや刈りに連れてって in 戸狩温泉スキー場」

11月9日、戸狩スキー場とんだいらグレンデにて実施しました。参加者は、井田会長の研究室の学生さんをあわせ、15名ほど。講師に茅葺き職人でもある小谷屋根の松澤さんにお越しいただき、カヤのお話しと刈り方のお手本をお見せいただいで作業を行いました。

カヤ刈りは刈り払い機を使わず、専用の鎌で行います。さすがに、職人の松澤さんは鎌さばきも見事で、みるみるとカヤを刈り進んでいけました。

このカヤの種類は、主にはススキの「大茅（オガヤ）」ですが、中にはカリヤスの「小茅（コガヤ）」も見られます。

コガヤは草丈が低く茎が細いものの、しなやかで長持ち(茎の中が空洞で、通気性がよい・・・)するそうです。



小谷屋根・松澤さんの刈り取り



カリヤス(小茅・コガヤ)



カヤ刈り作業

刈り取ったカヤは束ねて保管場所まで運搬、作業終了近くになって雨が降り始めましたが、何とか予定していた作業を終え、おにぎりキノコ汁の昼食をいただき、解散しました。

今回採取したカヤは買い取っていただき、来夏、近隣村の古民家の修復に使われる予定です。

さて、イネ科のカヤ類はやせた火山灰土でも育ち、土壌に有機物(腐植)を供給します。一方、オオルリシジミの食草クララはマメ科特有の空中窒素固定で土壌に養分を供給します。そんな草種のバランスが豊かな畑の土(黒ボク土)を作ってきたのでは・・・などと草地の歴史的な意義についても考えるこの頃です。



参加者集合写真

・オオルリシジミ生息地管理

10月24日に保護区域のロープ撤収、11月15日に看板撤収等の作業を行いました。11月24日は通路整備のほか、カヤのサンプル採取も実施、当地のカヤも利用できるか検討したいと思います。12月上中旬の降雪(12月としては平年よりもかなり多い・・・)で生息地は雪に覆われ、管理作業も春まで待つこととなりました。



冬の生息地(1月25日、積雪約180cm)

・飯山市の新名所に・・・「新中央橋」の開通とオオルリシジミのレリーフ

飯山市内中心部、千曲川に架かる新しい中央橋が12月14日に開通しました。

この橋は、県内の道路で初めて採用されたエクストラードードという形式だそうで、低い橋塔と傾きの緩いケーブルが特徴で、景観的にも優れています。旧中央橋の路面より4mほど高く、幅3mの歩道が両側にあり、眺望も楽しめる設計になっています。

南側の歩道の欄干には「オオルリシジミ」「オシドリ」「フクジュソウ」のレリーフが飾られており、通行する人たちに飯山を代表する生き物たちを知ってもらうよう配慮しています。新中央橋が飯山市の名所となり、オオルリシジミが里山の自然のシンボルとして認知されることを期待するところです。



新しい中央橋とオオルリシジミのレリーフ

・「全国草原再生ネットワーク」への加入について

当会ではオオルリシジミの保護、生息地のカヤ場利用などの草原の保全活用を進めているところですが、全国的にも草原の環境や資源的価値が見直されてきており、全国で草原再生活動を行っている方々と連携を深め、草原再生・利活用に寄与することを目的に「全国草原再生ネットワーク」が2007年に設立され、活動を行っています。

「全国草原再生ネットワーク」ホームページアドレス：<http://sogen-net.jp/about/>

当会でも全国に発信すべきような取り組みを行っており、当会の「全国草原再生ネットワーク」への加入について井田会長から提案がありました。本件については総会でも諮りたいと思いますので、御意見などお願いします。

編集後記

新年度の活動に向け、会ではイベント用バナー（垂れ幕）や新しい入会案内・リーフレットを作成中です。そして、3月14日はいよいよ北陸新幹線が開業します。市のシンボルツリーとして「ブナ」を飯山駅周辺に植栽する計画が発表され、自然豊かなブナの森の中の駅舎を想定しているそうです。3月1日の総会終了後は、希望する会員に植栽予定地の見学・説明を行いたいと思いますが、「ブナの森が育む信越自然郷」を会としても発信していければと考えます。

発行者：北信濃の里山を保全活用する会	会長 井田秀行
事務局：〒389-2253	飯山市大字飯山1436-1
	飯山市公民館内
TEL：0269-62-3342	FAX：0269-62-5940
E-mail：kouminkan@city.iiyama.nagano.jp	
編集者・事務局長：福本匡志	